

【FdData 中間期末：中学歴史：鎌倉時代】

【農業と商業の発達】

【問題】(2 学期期末)

次の各問いに答えなさい。

- (1) 鎌倉時代に始まった、米の裏作に麦をつくる農業を何といいますか。
- (2) 桑・漆・茶など、原料や商品として売る作物の栽培も鎌倉時代に始まりましたが、これらの作物を何といいますか。

【解答】(1) 二毛作 (2) 商品作物

【解説】

【鎌倉時代の農業の発達】

二毛作の普及（米と麦）

牛馬の利用，鉄製の農具の普及

商品作物の栽培

商業もさかんになる（月に3回，市が開かれる）

鎌倉時代の中頃から、^{ぎゅうば}牛馬の利用，鉄製の農具の普及、^{ふきゅう}草木灰など^{そうもくばい}肥料の普及、^{ひりょう}二毛作の普及により農業生産が向上した。この二毛作は^{にもうさく}表作として^{おもてさく}米を作り、^{うらさく}裏作として麦を作るものであつ

たが、土地がやせるのをふせぐためには肥料を与える必要があった。また、1つの土地を水田として利用した後、水を落として畑として使い、翌年ふたたび水を引き込んで水田にするためには、かんがいようすい灌漑用水の整備・田畑の耕作など手間がかかるようになる。牛馬の利用、鉄製の農具の普及による農作業の効率化によって、こうしたことが可能になったと考えられる。また、くわ うるし桑・漆・茶など、原料や商品として売るしょうひんざくもつ商品作物の栽培も始まった。ただし、綿は朝鮮から綿種が伝わり、戦国時代、みかわ三河地方から栽培が始まった。

[問題](3 学期)

鎌倉時代には、さまざまなくふうにより農業生産が高まった。あてはまるものを次のア～エから2つ選べ。

- ア 米の裏作に麦をつくる二毛作がおこなわれるようになった。
- イ 牛馬が耕作に利用され、鉄製の農具も普及した。
- ウ 農民がさかんに土地を開墾して自分の農地をふやした。
- エ 綿などの商品作物が栽培されるようになった。

[解答]ア, イ

[問題](1 学期期末)

鎌倉時代は農業も発達し、1 つの耕地で、米と裏作として麦を作る何が行われたか。

[解答]二毛作

[問題](2 学期中間)

鎌倉時代の農民の生活を、正しく説明した文をア～オから 2 つ選べ。

- ア 荘園領主には年貢を納め、地頭にも支配された。
- イ 木製の農具を使用していたため、生産力は上がらなかった。
- ウ 墾田永年私財法によって開墾した土地は、すべて自分のものになった。
- エ 中央から派遣された国司が税を取り立てた。
- オ 牛や馬が利用され、米の裏作に麦を作る二毛作が始まった。

[解答]ア, オ

[解説]

アは正しい。鎌倉時代、荘園の農民は荘園領主に年貢を納めるだけでなく、地頭の支配も受け、二重の支配に苦しんでいた。

イは誤り。鎌倉時代には鉄製農具が普及していた。

ウは誤り。墾田永年私財法は奈良時代(743年)に出された法令である。

エは誤り。オは正しい。

[問題](2学期中間)

次の資料からわかることをア～ウから1つ選べ。

『荘園領主への訴状』

材木の納入のことですが、地頭が何かにつけて人夫としてこき使うので、そのひまがありません。残されたわずかの者で、言われたとおりに材木の切り出しに向かわせたところ、「逃げた農民の土地に麦をまけ」と地頭に追い返されてしまいました。…

ア 各地で土地の開墾がすすめられた。

イ 農民は荘園領主と地頭の二重支配に苦しんでいた。

ウ 農業生産が高まり、農民の生活は向上した。

[解答]イ

【解説】

農民は荘園領主と地頭の二重支配に苦しんだが、農業生産の向上等によって力をつけた農民は、村を中心に団結を強め、こうした支配にも集団で対抗するようになった。

【問題】(3 学期)

次の文の()にあてはまる語句を、語群から選んで答えなさい。

鎌倉時代の中ごろから農業技術が進歩し、農業生産は高まりました。(①)を使った耕作や、裏作に麦を作る(②)が広まり、肥料も普及しはじめました。また、桑・うるし・茶など、原料や商品として売る(③)の栽培も始まりました。

農業生産が高まるとともに、商業もさかんになり、農村にも(④)ができました。農民は(④)が開かれると農作物を売ったり、農具や衣料品などの日常生活用品を買ったりするようになりました。商業の発達につれて、貨幣(銅銭)が広く使われるようになりました。貨幣は、このころの日本では作られず、主に(⑤)などの中国の貨幣を輸入して使用しました。また、貨幣の流通とともに、京都や鎌倉には、銭を貸す(⑥)も現れました。

(語群) [高利貸し 市 牛馬 二毛作 宋
元 商品作物]

[解答]① 牛馬 ② 二毛作 ③ 商品作物 ④ 市
⑤ 宋 ⑥ 高利貸し

[解説]

鎌倉時代の中頃から、牛馬の利用、鉄製の農具の普及、ふきゅう 草木灰など肥料の普及、ひりょう 二毛作の普及により農業生産が向上した。農業生産の向上は、農業以外にたずさわる人々を生み出す余裕を社会に与え、農村には、農具を作る鍛冶屋やかじや 染物そめものをあつかうこうや 紺屋などの手工業者が住みついた。また、農民も副業として商品作物を作り、絹布や麻布などを織るようになった。寺社の門前や交通の便利なところでは、月に3度、市が開かれ、これらの物資が売買されるようになった。

[問題](3 学期)

次の文の①、②に適語を入れよ。

鎌倉時代には農業生産が高まり、米の裏作に麦をつくる(①)も行われるようになった。また、寺社の門前や交通の便利なところで(②)が定期的に開かれ、米や布などの日用品が売買された。

[解答]① 二毛作 ② 市

[問題](2 学期中間)

寺社の門前や交通の便利なところで、定期的に開かれていたものを何とよいか。

[解答]市

[問題](3 学期)

資料のような市は、おもにどのような場所で開かれたか、ア～ウから1つ選び、記号で答えよ。



- ア 寺社の門前など、交通の便利なところ
- イ 山に囲まれた交通の不便なところ
- ウ 海岸に築かれた石塁のあるところ

[解答]ア

[問題](3 学期)

次の絵の説明として最も適当なものはどれか。
下から 1 つ選んで記号で答えよ。



- ア 貴族の住まいである寝殿造の建物がみられる。
- イ このような商業街は、当時はまだ鎌倉や京都、奈良などのにぎやかな場所でしかみられなかった。
- ウ これは京都の市街のにぎわいを描いたもので、このような定期市は月に 6 回開かれた。
- エ 月 3 回開かれた定期市の様子を描いたもので、品物売る商人と小屋などがみえる。

[解答]エ

[解説]

鎌倉時代の定期市は月に 3 回開かれた。室町時代になって、月に 6 回開かれるようになった。

◆社会歴史の各ファイルへのリンク

<http://www.fdtype.com/dp/sr2/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

http://www.fdtype.com/dp/qanda_k.html

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)
の価格・購入方法

<http://www.fdtype.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、
「iBooks」を開いてリンクをタップください。

【Fd 教材開発】 Mail : info2@fdtype.com